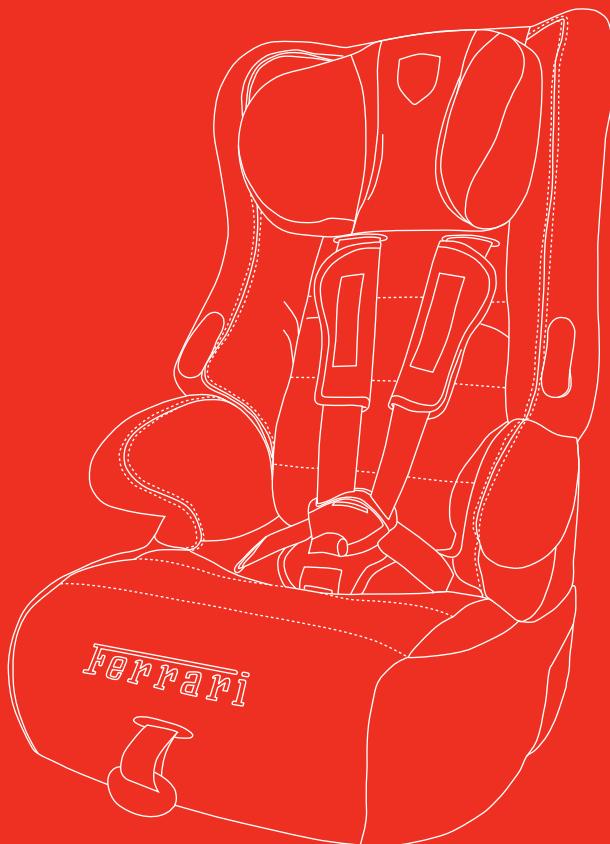


TYPE 301



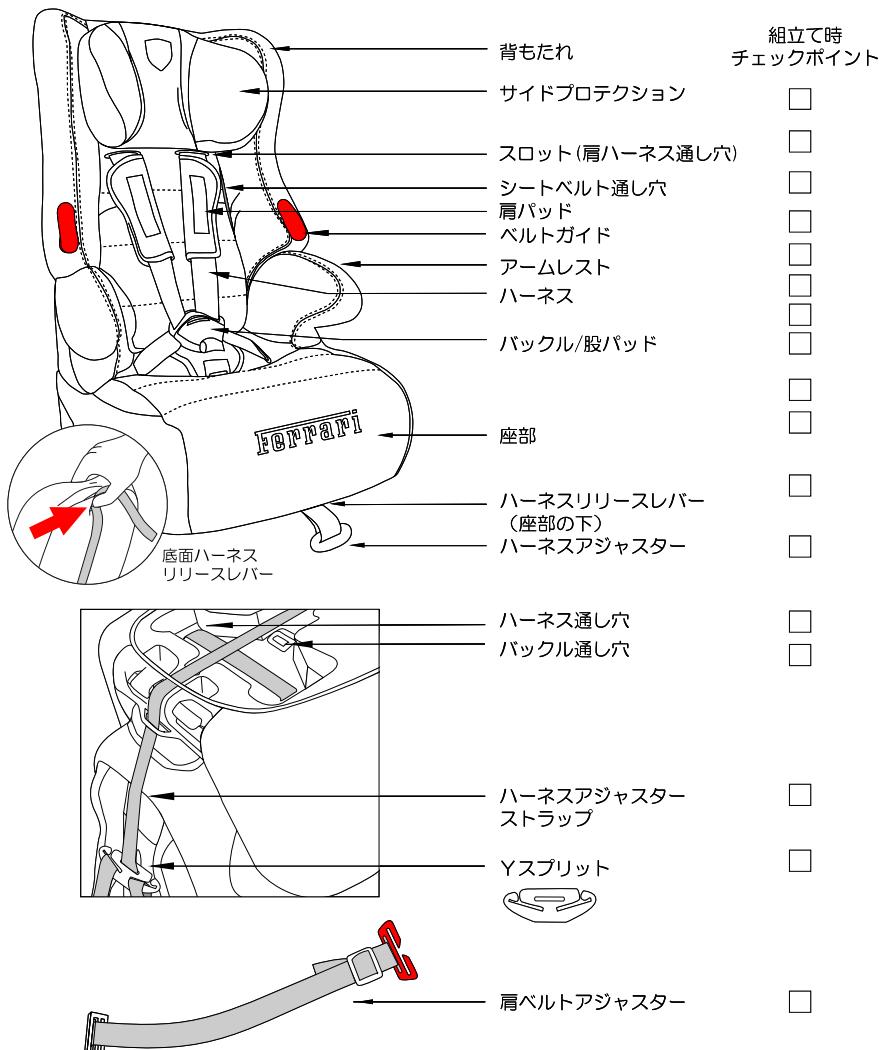
3点式シートベルト専用
体重10KG~36KG
取扱説明書(保証書付)
本書は常に車検証と一緒に車内に保管してください

エアバッグ装備の座席では使用しないでください。死亡または重傷を負うおそれがあります



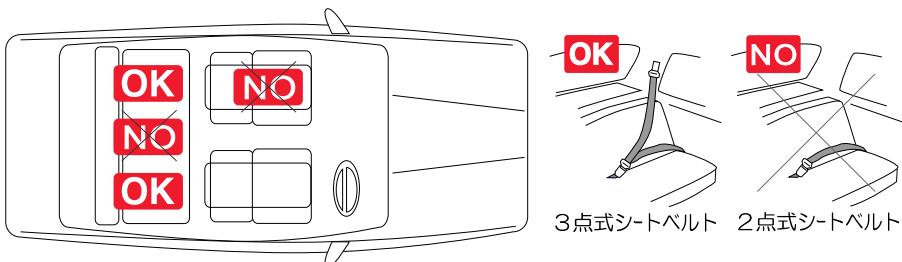
●各部名称

この製品は適応体重10kg~36kgのお子様用です。満1歳のお子様から車のシートベルトが正しく使用できるようになるまで(身長140cm~150cm以上目安)のお子様を対象にデザインされています。



この製品には肩ベルトアジャスターがついています。肩ベルトアジャスターは肩ハーネスをとりはずした場合(STAGE2とSTAGE3)に使用します。肩ベルトアジャスターの正しい使用方法はページ19をご参照ください。

●取付け可能な場所



 ! 後部中央座席は3点式ベルトで座席幅が40cm以上ある場合に限り装着可能です
注意！エアバッグ装備の座席では使用しないでください。死亡または重傷を負うおそれがあります

●車のシートベルトの注意事項（STAGE1のみ）

※シートベルトの種類によって取付けできない場合があります。ご使用のお車のオーナーズマニュアル、ならびに下記表を参照の上ご確認ください。

シートベルトの種類	特徴	取付けにあたっての注意
E LR付 シートベルト	通常はベルトの長さ調整が自由にでき、ベルトに瞬間に大きな力が加わった時に長さの調整がロックする機構をもつたもの。	取扱説明書に従って、取付けを行ってください。
A-E LR付 シートベルト (チャイルドシート固定機能付)	E LRの機能に加えて、ベルトを最大に引き出すことでベルトの長さ調整機構がロックされ、巻き戻す方向のみ調整できる機構をもつたもの。	本製品取付け時にシートベルトのロック機能を作動させてください。
A LR付 シートベルト	一度ベルトを引き出したところまでシートベルトの長さ調整機構がロックされ、ベルトを巻き戻す方向のみ調整できる機構をもつたもの。	取付けに必要な長さを引き出し、本製品の取付けを行います。
マニュアル式 シートベルト	車体側にシートベルトを格納する機能が無く、ベルト全長が露出しているもの。	取付けに必要な長さを引き出し、本製品の取付けを行います。
オートマティック式 シートベルト	ドアの開閉で自動的にシートベルトが装着されるもの。	本製品を固定することが出来ないため、使用できません。

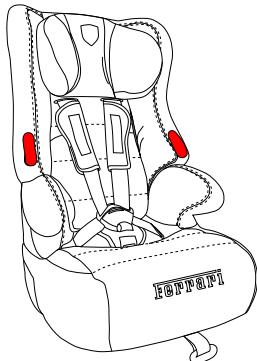
ご使用のお車のシートベルトの種類が不明な場合は各自動車メーカーにお問い合わせください。

● 使用方法

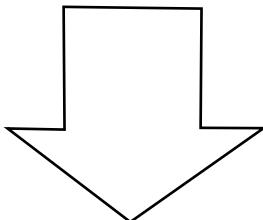
3つのステージでお子様を守ります

この製品は適応体重10kg～36kgのお子様用です。
必ず下記の適応体重内でSTAGE1～3の形でご使用ください。

● STAGE 1

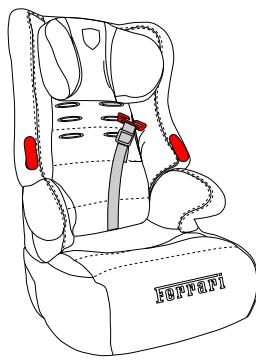


体重 10～18kg
・肩ハーネス付き
・背もたれ付き
・座部

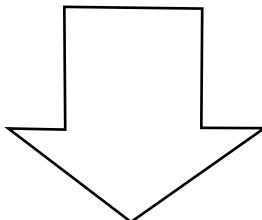


P5～P10
P18～P23

● STAGE 2

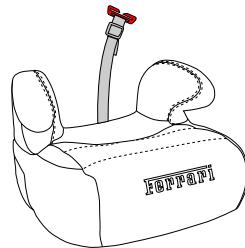


体重 15～25kg
・背もたれ付き
・座部

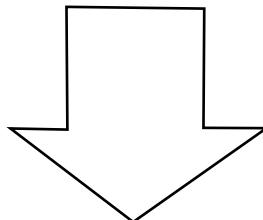


P11～P14
P17～P23

● STAGE 3

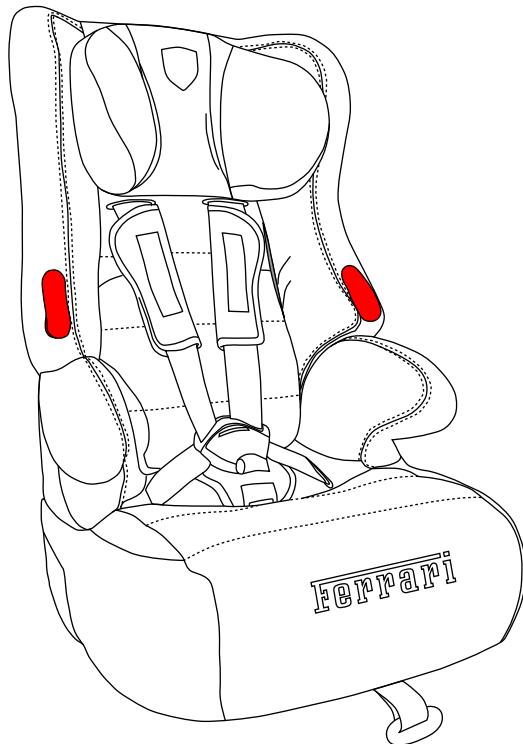


体重 25～36kg
・座部のみ



P15～P23

STAGE 1



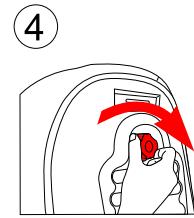
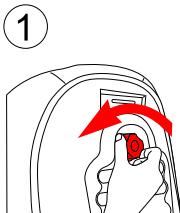
体重10~18Kg

- ・肩ハーネス付き
- ・背もたれ付き
- ・座部

※5点式ハーネスは衝突時にお子様がチャイルドシート内の正しい位置で守るために一番安全です。STAGE 2は15Kgからご使用いただけますが、体重18KgまではSTAGE 1の5点式ハーネスでお子様を守ることを強くおすすめします。

● STAGE1(サイドプロテクションの高さ調整)

サイドプロテクションは必ずお子様の成長に合わせて、適切な高さでご使用ください。
(お子様の成長に合わせ、窮屈になった場合は、はずしてください。)



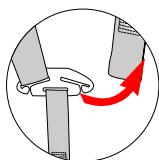
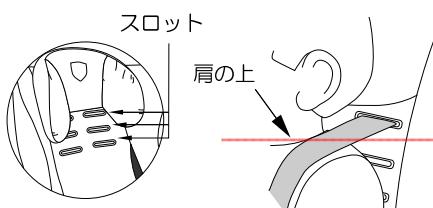
チャイルドシート背面
にあるサイドプロテク
ション調節ねじを緩め
ます。(左回し)
お子様が座っても倒
れないような場所に
チャイルドシートを
置きます。お子様を
深く座らせます。

図のようにお子様の耳
のラインがサイドプロ
テクションの真ん中辺り
に納まるように移動
します。

適切な高さで調節ねじ
を締めます。(右回し)

● STAGE1(肩ハーネスの高さ調整)

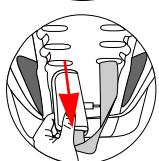
この製品には3つの肩ハーネス用スロットが
あります。お子様の成長に合わせて高さを変更
してください。肩ハーネスはお子様の肩もしくは
肩よりやや上の位置でご使用ください。肩の下
の位置での使用は避けてください。ハーネスの
高さ変更には、下記の手順(①~⑤)をご参照
ください。高さ変更は、左右同時にではなく、
どちらか一方を先に行い、あとからもう一方を
調整してください。



① チャイルドシート背面に
あるYスプリットから肩
ハーネスをはずします。
(必ず左右どちらか片方
ずつ行ってください)



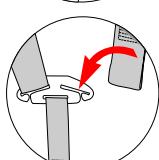
② チャイルドシート前面より
肩ハーネスを引抜き、肩
パッドからも引抜きます。



③ 肩パッドをチャイルド
シート背面から引抜き、
お子様に適切な高さの
スロットに差し込みます。



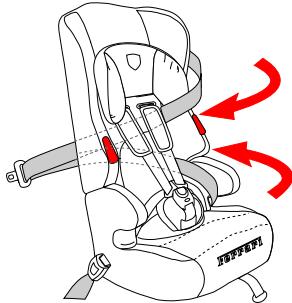
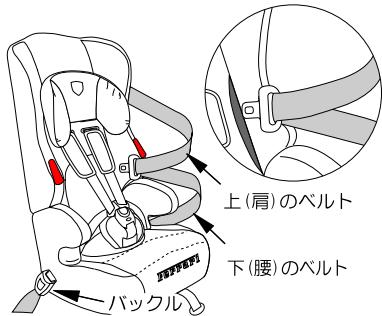
④ チャイルドシート前面より
肩ハーネスを肩パッドと
スロットに差し込みます。
(必ずハーネスにねじれが
ないか確認してください)



⑤ チャイルドシート背面の
Yスプリットに肩ハーネス
を取り付けます。
(もう一方も①~⑤を繰り
返してください)

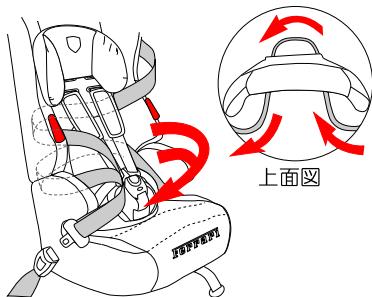
●STAGE1(車のシートベルトの通し方)

①～⑤の手順に従い車のシートベルトを十分に引出し、指定どおりベルトパスに通し、バックルにはめます。**注意!**車のシートベルトの種類がA/ELR式の場合(ページ3参照)装着後、車のシートベルトをすべて引出しロックをかけた状態で締付け直してください。(ロックをかけた状態で装着した場合、取はずしの際にはずれにくいこともあります。)



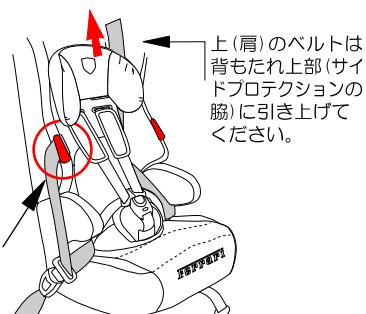
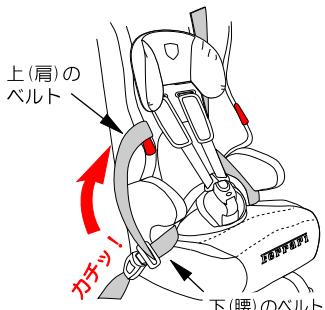
① バックル反対側の脇穴に前から後ろにベルトを通す。

② 下のベルトをバックル反対側のアームレストにかける。



③ **注意!**ベルトは必ず背もたれ後ろを通す

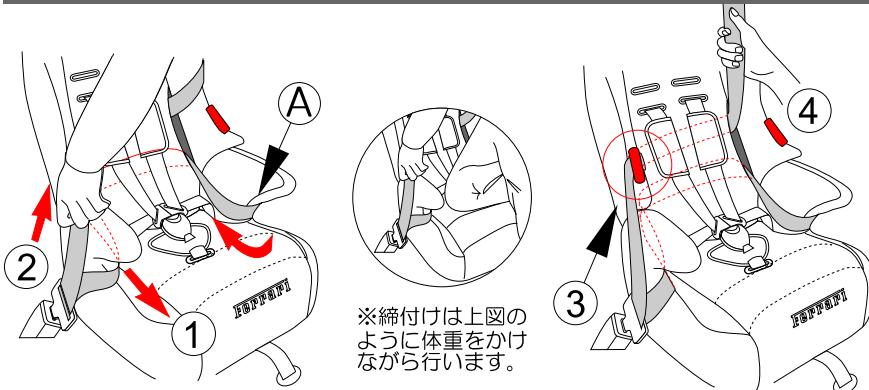
④ バックル側の脇穴に後ろからベルトを通す。



⑤ バックル側のアームレストにベルトをかけバックルにはめる。

注意!ベルトは必ず赤いベルトガイドに掛ける。

●STAGE1(車のシートベルトの正しい締付け方)



車のシートベルトを①→②→③→④の手順で矢印の方向に引き、たるみをなくし、ベルトに張りをもたらせます。

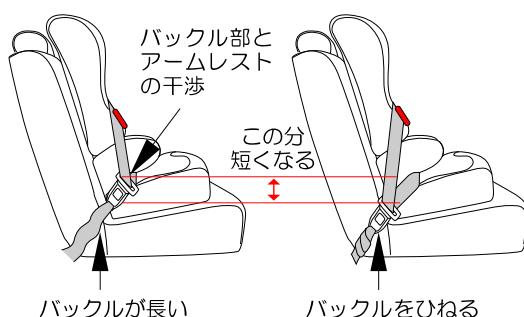
- ① 車の前方向に引きます。A部分のベルトがきつく張っていることを確認します。
- ② 体重を座面にかけながら天井方向に引きます。
- ③ ベルトをベルトガイドに掛けます。
- ④ ベルトを引き抜き、背もたれ上部（サイドプロテクションの脇）に引き上げます。

注意！車のシートベルトの種類がA/ELR式の場合①～④の後、車のシートベルトをすべて引出しそロックをかけた状態で締付け直してください。（ロックをかけた状態で装着した場合、取はずしの際にはずれにくいこともあります。）

▲ バックルのひねりについて

本体を取付ける際、取付ける車のシートベルトの仕様によって本体とバックルの一部が干渉し、正確に固定できないことがあります。
その場合、バックル部を3回を限度としてひねり、バックルの長さを短くすることで正確に固定できることがあります。

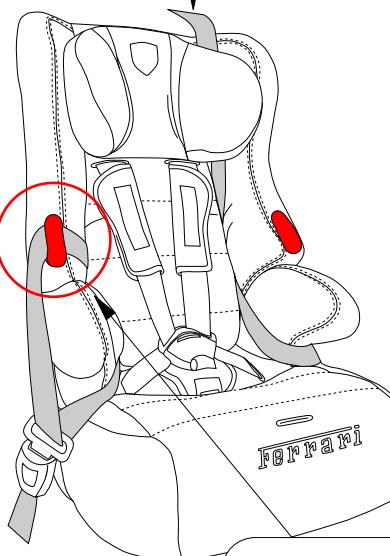
注意！
バックルをひねることによりシートベルトの強度は低下します。
必ず3回を限度とし、必要以上にひねることはおすすめできません。



注意！
車のシートとチャイルドシートの間に物（座布団・本等）をはさまないでください。本革シート座席で椅子が滑りやすい場合は、薄い滑り止めシートなどをご利用ください。

●STAGE1シートベルト装着確認図

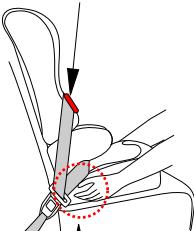
上(肩)のベルト
はこの位置に！



注意！ベルトは必ず
赤いベルトガイドに
掛ける。

STAGE1の締付けチェック

ベルトガイドに
掛けているか確認。



手の位置

両手でベース部分のシート
ベルトがとまっている辺り
(図参照)を持ち左右水平に
ゆらし、次に回転するかの
確認を。正しく締付けている
場合、抵抗感があります。

ヒント：シートベルト全体が
きつく張っていますか？
締付けがゆるい場合は、
ページ8上段STAGE1の
①～④を繰返してください。



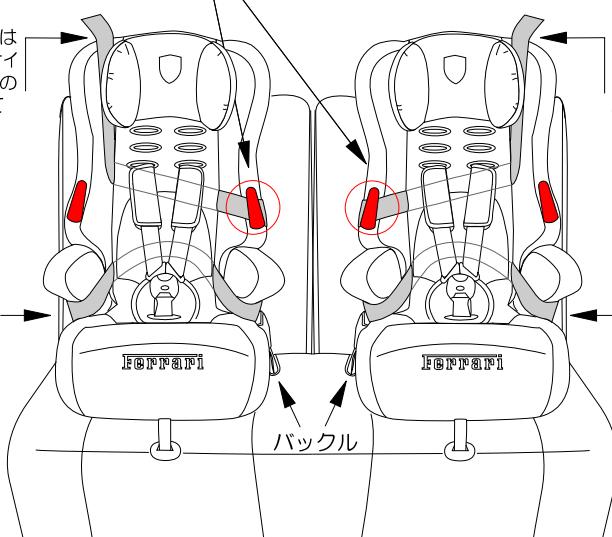
左右・前後 回転



エアバッグ装備の座席では使用しないで
ください。死亡または重傷を負うおそれが
あります。

上(肩)のベルトは
背もたれ上部(サイ
ドプロテクションの
脇)に引き上げて
ください。

下(腰)の
ベルト



上(肩)のベルトは
背もたれ上部(サイ
ドプロテクションの
脇)に引き上げて
ください。

下(腰)の
ベルト

●STAGE1(肩ハーネスの正しい使用方法)

⚠ 5点式ハーネスは衝突時にお子様がチャイルドシート内の正しい位置で守られるために一番安全です。体重18kgまでは必ずSTAGE1でご使用ください。

①



① お子様を深く座らせます。肩ハーネスはお子様の肩の高さまたは肩よりやや上の高さのスロット(肩ベルト通し穴)から出してご使用ください。

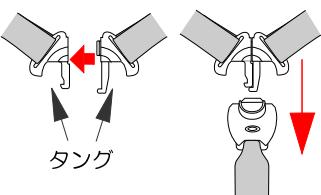
注意! お子様の肩より下のスロットまたは肩より上すぎるスロットの使用は避けてください。
(肩ハーネスの高さ変更はページ6参照)

② タングは左右あわせた状態でバックルにはめます。

③ 肩ハーネスを上に引き、お子様の腰をしっかり拘束するように締付けます。

④ ③で出る肩ハーネスのたるみはハーネスマジスターを引いてとります。

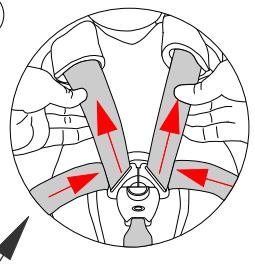
②



⑤ 締付け目安は、指一本が肩ハーネスと鎖骨の間にに入るくらい。ゆるい場合は③④を繰り返してください。

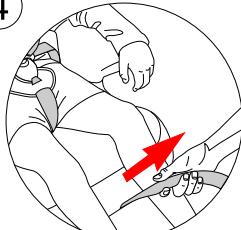
※ 締付けがきつすぎた場合、リリースボタンを押しながら肩ハーネスをゆるめてやり直して下さい。

③

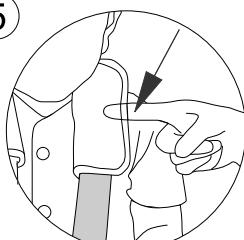


注意! ハーネスを締付ける際に必ず腰ハーネスにたるみが無いことを確認してください。

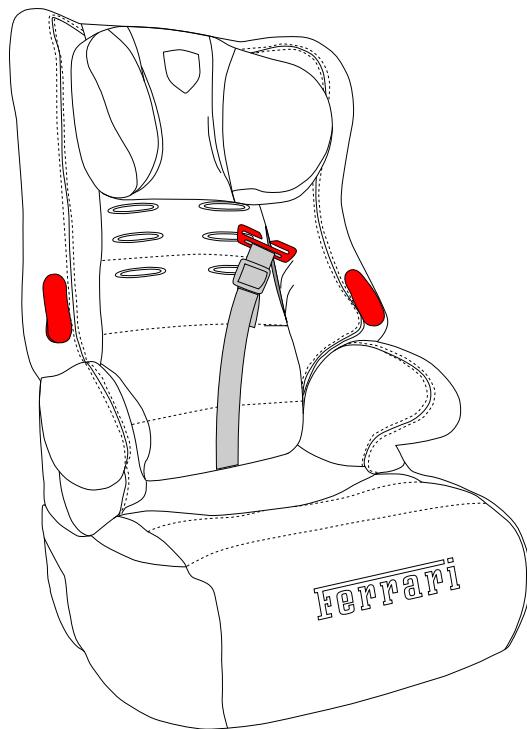
④



⑤



STAGE 2

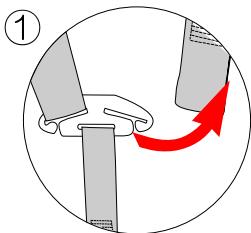


体重15~25kg
・背もたれ付き
・座部

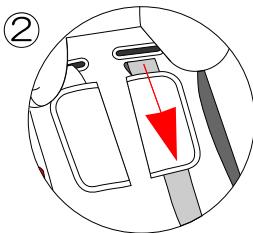
●STAGE 2 (ハーネスの取外し手順)

お子様が体重18kg以上になって、STAGE 2・STAGE 3として使用する場合、必ず肩ハーネスを本体から取りはずしてください。取りはずした肩ハーネスは大切に保管しておいてください

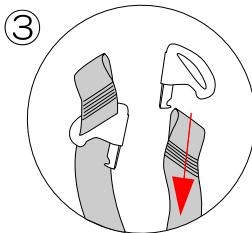
ハーネスのはずし方



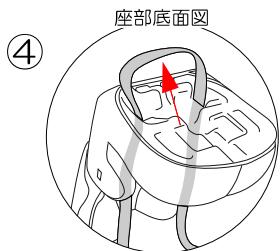
チャイルドシート背面にあるYスプリットから肩ハーネスをはずします。



チャイルドシート前面より肩ハーネスを引抜き、肩パッドからも引抜きます。



左右のハーネスからタングをゆっくりとはずします。

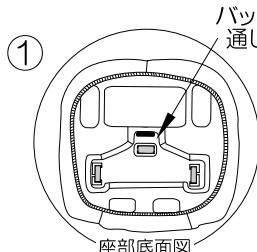


チャイルドシートの座部底面を上にしてください。ハーネスを引出します。

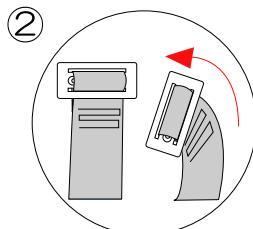
注意! ハーネスリリースレバーからハーネスアジャスターを絶対はずさないでください。はずした場合には元に戻せないことがあります。

はずしたパーツは無くさないように大切に保管してください。

バックルのはずし方



チャイルドシートの座部底面を上にしてください。中央あたりにバックルのベルト端に金具が確認できます。



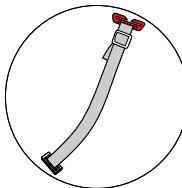
バックル部分の金具を引出し、座部の穴にむかって、金具を縦にして座面方向に押し込みます。



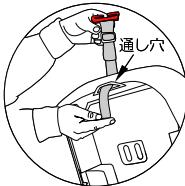
ゆっくりとバックル部分を矢印方向に引っ張ります。

● STAGE2(お子様の乗せ方)

注意! STAGE2の適応体重は15kg以上ですがお子様の安全を考慮し18kgまではSTAGE1でご使用ください。STAGE2からはお子様が姿勢よく常に背中を背もたれにつけて使用する必要があります。



肩ベルトアジャスター
これは、シートベルトがお子様の肩の真ん中(正しい位置)からずれ落ちない為に使用します。



肩ベルトアジャスターのつけ方
座部底面の背もたれ側にあるベルトを通す穴に、アジャスターのプラスティッククリップを抜けないよう差し込んでください。



注意! お子様が座る前に肩ベルトアジャスターはチャイルドシート前面に引き出します。

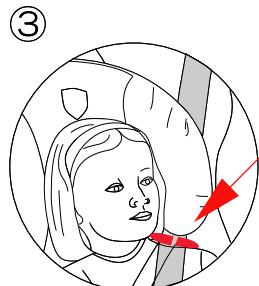
※車のシートベルトがお子様の肩の真ん中(正しい位置)に載る場合は、肩ベルトアジャスターをとめずに使用できます。



深くお子様を座らせて、車のシートベルトを重ねてバックルにめます。この時必ず腰ベルトと肩ベルトはアームレストの下になります。



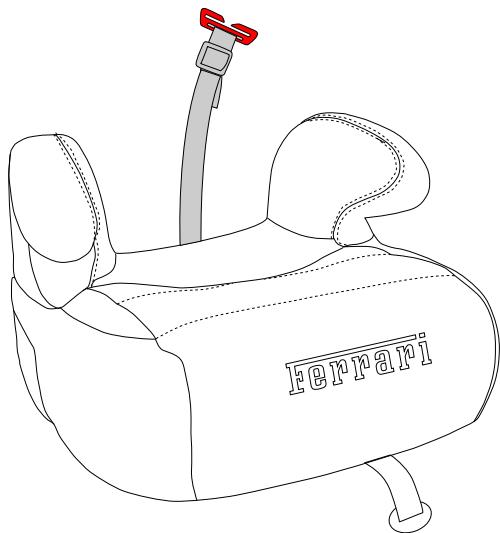
肩ベルトアジャスターを肩の位置でとめます。
アジャスターストラップ(点線)は背中から回し、肩の位置で車のシートベルトと合わせます。



シートベルト全体にねじれやたるみの無いように引締めます。(肩ベルトアジャスターの位置を再度合わせます。)
※シートベルトとアジャスターベルトは「たすき掛け」となります。

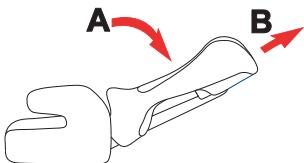
MEMO

STAGE 3



体重25~36kg
・座部のみ

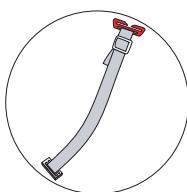
● STAGE3(背もたれの取外し手順)



背もたれをはずすには**A** 軽く力を入れてゆっくり後ろに倒し **B** 背もたれ部を座部からはずしてください。

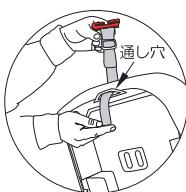
● STAGE3(お子様の乗せ方)

⚠ STAGE3の適応体重は25kg以上です。お子様の安全を考慮し25kgまではSTAGE2でご使用ください。STAGE3はお子様が姿勢よく常に背中を背もたれにつけて使用する必要があります。



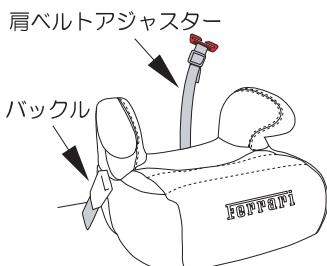
肩ベルトアジャスター

これは、シートベルトがお子様の肩の真ん中(正しい位置)からずれ落ちないために使用します。



肩ベルトアジャスターのつけ方

座部底面の背もたれ側にあるベルトを通す穴に、アジャスターのプラスティッククリップを抜けないよう差し込んでください。



注意! お子様が座る前に肩ベルトアジャスターはチャイルドシート前面に引き出します。

※車のシートベルトがお子様の肩の真ん中(正しい位置)に載る場合は、肩ベルトアジャスターをとめずに使用できます。

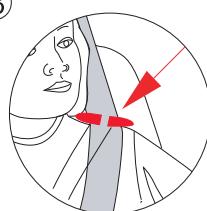
①



②



③



深くお子様を座らせて、車のシートベルトを重ねてバックルにめます。この時必ず腰ベルトはアームレストの下に、肩ベルトはアームレストの上になります。

肩ベルトアジャスターを肩の位置でとめます。
アジャスターストラップ(点線)は背中から回し肩の位置で車のシートベルトと合わせます。

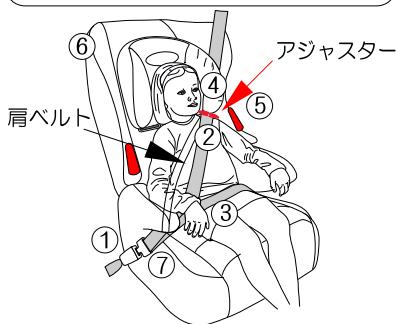
シートベルト全体にねじれやたるみの無い様、引締めます。
(肩ベルトアジャスターの位置を再度合わせます。)
※シートベルトとアジャスターベルトは「たすき掛け」となります。

●STAGE2・STAGE3で発見されるよくある間違い

①～② 全体的なシートベルトの締付けがゆるすぎる

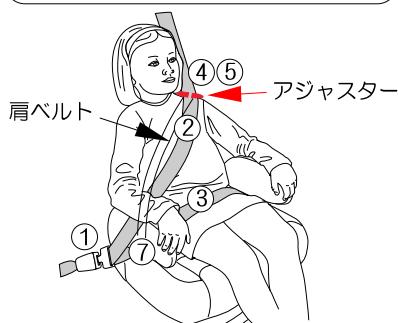
ブースターだからといって、ただベルトを通してバックルにはめればよいではありません。バックルにはめたら①の場所をひっぱり、腰ベルトがお子様の腰骨の上、大腿部(太もも)の付け根にあることを確認し、たるみをとります。次に②の場所をひっぱり、胸部から肩の上に正しく肩ベルトがあることを確認し、締付けます。

●STAGE2(体重15kg～25kgの場合)



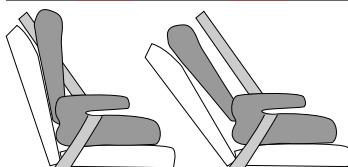
※上下の説明図は正しい装着です。

●STAGE3(体重25kg～36kgの場合)



OK

NO



車の座席の背もたれがリクライニングする場合、できるだけ起こした状態で装着または使用してください。(STAGE1・2・3共通)

③ 腰ベルトが腹部にかかっている

腰ベルトは必ず図のよう、腰骨の上、大腿部(太もも)の付け根に載っていなければいけません。万一腰ベルトが腹部に載っている場合、衝突時、内臓破裂やサブマリン現象を起こす可能性があります。

④ 肩ベルトが肩からはずれている

衝突時、上体が前方に回転し、脊柱・脊髄・頭部などに重症を負う危険があります。必要ならば肩ベルトアジャスターを使用して肩ベルトが正しく肩の上に載るように調整してください。

⑤ 肩ベルトが首にかかっている

肩ベルトが首にかかっているまたはかかりそうになっている場合、首の損傷または、ベルトの痕がつくなどの重傷を負う可能性があります。必要ならば肩ベルトアジャスターを使用して肩ベルトが正しく肩の上に載るように調整してください。

⑥ 背もたれのリクライニングを倒しすぎている

背もたれの角度はなるべく垂直状態を保ってください。姿勢を正しく保つことで、衝突時、腰ベルトや肩ベルトが、お子様を正しい位置で守ります。

⑦ ベルトの通し方をまちがっている

肩ベルトと腰ベルトはSTAGE2まではバックル側のアームレストの下にまとめて通します。STAGE3からはアームレストの下に腰ベルト、上に肩ベルトと分けて通します。

●STAGE2・STAGE3のクイックチェック!

- ① 背中は座席の背もたれにぴったりついていますか？
- ② シートベルトがお子様の腰骨、肩の真ん中に載っていますか？
- ③ シートベルト全体にたるみはありませんか？
- ④ 肩ベルトアジャスターは肩の位置にありますか？
- ⑤ 薄着ですか？(コート、ブランケットはシートベルト上に掛けましょう)

* 厚着の場合、衝突時にシートベルトとお子様の間に隙間ができ、危険を及ぼす場合があります

●よくあるQ&A

Q1. チャイルドシートはいつまで使用する必要があるのでしょうか?

法律では6歳未満のお子様への着用が義務付けられていますが(2006年10月現在)車のシートベルトが正しく使えるまでは(身長140cm~150cm以上目安)、車内でのお子様の安全を確保するため、必ずチャイルドシートを使用する必要があります。下の5ポイントチェックをしてチャイルドシートが必要かどうか確認してみてください。

Q2. うちの子はこのチャイルドシートの対象でしょうか?

お子様が使用体重制限内であるかを必ず確認してください。この製品は適応体重10kg~36kg、満1歳からのお子様を対象としています。1歳未満のお子様、体重10kg未満のお子様は使用できません。なお体重18kgまでは必ずSTAGE1として5点式ハーネスをご使用ください。

Q3. この製品でよくある間違いを教えてください。

- ・1歳未満のお子様を乗せている(1歳未満では必ず後向きチャイルドシートをご使用ください)
- ・体重18kg未満のお子様を5点式ハーネスなしで(STAGE2またはSTAGE3として)使用している
- ・ベルトの通し方が間違っている(P7/STAGE1・P13/STAGE2・P16/STAGE3参照)
- ・ベルトの締付けがゆるすぎる(P8・9参照)
- ・背もたれをリクライニングさせている(P17最下段左図参照)

Q4. チャイルドシートの使用期限はどのくらいでしょうか?

チャイルドシート本体の材質はプラスティックです。プラスティックは加水分解等で見えない亀裂など生じる場合があります。従い、チャイルドシートの使用期限は購入日より5~6年が目安です。一度落としたり、事故・衝撃にあった場合は必ず買い替えてください。もし購入より10年以上たつようであれば廃棄するようお願いします。(廃棄方法についてはP20に記載)

Q5. 助手席への装着はなぜだめなの?

チャイルドシートは一番衝撃の大きい前面の衝突に対して設計されています。その衝突から少しでも被害を少なくするために車の前方から少しでも距離を置いた後席に設置する必要があります。

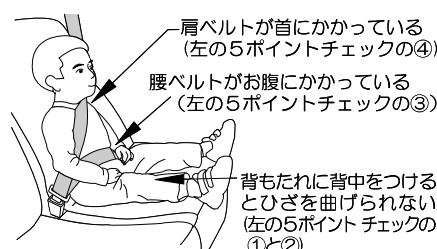
Q6. どうしてエアバックの前に装着してはいけないのですか?

エアバックは時速200km~300kmのスピードで一瞬にふくらみます。座った子どもの頭の位置は大人に比べると低く、エアバックにより近い位置になります。従ってエアバックの作動範囲に入ってしまう危険があります。作動範囲に入った場合には最悪エアバックに飛ばされてしまいます。後部座席に座る場合は怪我が減るというデータもあります。エアバック前には座らせないでください。

●5ポイントチェック

- ①お子様の背中は車のシートの背もたれにぴったりくっついていますか?
(衝突時、お子様が深く座っていない場合、前席などにぶつかります)
- ②お子様のひざは車のシート先端の位置できちんと曲がりますか?
(お子様はひざを曲げられる位置まで移動しますので、①に説明のぶつかる状態になります)
- ③腰ベルトはお子様の腰骨に位置していますか?
(お腹にベルトがかかる場合は衝突時に内臓破裂の危険があります)
- ④肩ベルトはお子様の肩の真ん中に位置しますか?
(首にベルトがかかる場合は衝突時に首の骨・神経を損傷する危険があります)
- ⑤お子様は車の移動中上記1~4の条件をずっと守っていますか?
(衝突はいつ起こるか予測できません。常に正しい)

位置におき、シートベルトで守られなければなりません)もし①~⑤のうち“NO”がひとつでもある場合は大人と同じようにシートベルトを使用するのは早すぎます。必ず背もたれつきまたは座部のみのブースターをご使用ください。なお体重18kgまでは5点式ハーネスつきのチャイルドシートをご使用ください。



●チャイルドシート・セーフティからのメッセージ

なぜチャイルドシートが必要なのか？

2000年にチャイルドシート着用が義務法制化されて、日本でもようやくチャイルドシートという言葉が一般に浸透してきました。法制化により1点減点されるからという危機感からチャイルドシートを購入なさった方も多いのではないでしょうか。しかし、その考え方は根本的に間違っていることはおわかりでしょうか。『チャイルドシートをなぜ使うのか？』という質問の答えは『減点されるから』ではなく、『車内の子どもの安全を考えるから』でなければならないのです。

衝突の恐ろしさを知ってください。

法制化されたにも関わらず、相変わらず『硬いシートに縛り付けてはかわいそう』『赤ちゃんが嫌がるから』『面倒くさいから』『ほんのちょっとの距離だから』と赤ちゃんを抱っこしたまま乗車しているお母さんがいますが、これは大きな間違いです。時速50kmの衝突時には赤ちゃんも体重の30倍の重さになります。10kgの赤ちゃんが突然300kgになったとしたら、お母さんの腕の力で支えられるわけがありません。

正しい装着は正しいチャイルドシート選びから。

万一の衝突時、車内の子どもの命を守る唯一の道具がチャイルドシートなのです。アメリカでは正しく装着していれば子どもの事故死は現在の4分の1に減少するといわれています。正しい装着をしているかどうかは子どもの命を守るために大変重要なポイントです。しかし、ChildseatSafety.com (CSS) の調査によると実際に正しい装着ができる車はゼロに近いのが現状です。その原因のひとつにお車と相性の良くないチャイルドシートを購入していることが挙げられます。車との相性が悪いと装着が困難になります。購入する際にご自分のお車との相性を確認していただきたいのです。できればチャイルドシートの専門家のいるお店でアドバイスを受けて購入していただくことがおすすめです。CSSデータから推察しますと、すでにチャイルドシートを使用している方も、うちは大丈夫とは思わず、なんらかの装着エラーが存在するとまずは考えていただきたいのです。

子どもを守るにはまずは親の教育から。

お子様を守る責任はお父さん・お母さんにあります。みなさん自身が車内のお子様の安全を守るための『正しい知識』そして『正しい装着方法』を知らなければならぬのです。万一のことがあってから、後悔してからでは遅いのです。どうぞ車を発進する前、お子様を守るために100%のことをしているかどうかの確認をしてください。驚くことに、大半のお父さん・お母さんは実は『ぐらぐらしているな』『何かおかしいな』と気づいているのです。少しでも不安があるようでしたら、先延ばしにせず、すぐに解決するよう努力してください。絶対に妥協せずに車内のお子様の安全を追及してください。われわれはみなさんを応援しています。

<http://www.childseatsafety.com>

●注意事項

●注意事項

- ・お子様を一人車内またはシート内に残さないでください
- ・必ず車のシートベルトで装着してください（ベルト、ロープ等では装着不可）
- ・事故や落下など、強い衝撃を受けた場合は使用を中止してください
- ・車内ではお子様が乗っていない時も必ず本体を車に固定してください
- ・お子様の為に1時間以上の運転は控えましょう
- ・本品を改造して使用することはできません
- ・障害を与える可能性のある荷物などはしっかりと固定してください
- ・カバーを外したままの使用（プラスティック本体のみ）はできません
- ・片側スライドドア車では使用位置に注意してください（ドア側への装着は後部席からの緊急時の脱出の妨げになることがあります）
- ・座席のリクライニングはできるだけ起こして使用ください
- ・本革シート座席に取付けをすると取付け跡が残ることがあります
- ・車のオーナーズマニュアルを併せて読んでください
- ・取扱説明書は常に車検証と一緒に車内に保管してください
- ・使用中、お子様から目を離さないでください
- ・発進前に必ず装着確認をし、走行中の取付け操作は行わないでください
- ・車のシートベルトはチャイルドシートの指定位置に必ず正しく通してください
- ・安定、安全の為に車のシートとチャイルドシートの間に隙間を作らないでください
- ・車のシートとチャイルドシートの間に物（座布団・本等）をはさまないでください
- ・直射日光による車内温度の上昇は危険です。チャイルドシートを使用しないで車内に放置する場合はカバーすることをおすすめします
(特に固定・接続部位など火傷をさける為)
- ・ご購入時の箱、袋等で小さなお子様を遊ばせないでください
- ・お子様の安全の為にも、使用方法をきちんと守ってください

●お手入れ方法

- ・カバーはすべて取り外せます
- ・アイロン、洗濯機、乾燥機は使用しないでください
- ・石鹼水をしめらせたスポンジ等で拭く、もしくは30度以下の液温で手洗いしてください
- ・中性洗剤、漂白剤等は使用しないでください

●保管場所

- ・市販の袋等をかぶせて、直射日光の当たらない涼しい場所
- ・お子様の手の届かない場所

●廃棄方法

- ・お住まいの各自治体の指示に従い、処分、廃棄してください。（できるだけカバーなどの付属品は取外して本体プラスティック部のみで廃棄することをおすすめします）
- ・事故による処分の場合、本品に「事故品」等記入し、「再使用不可」である旨必ず明記ください。また車のシートベルトを自動車ディーラー等で点検することをおすすめします

●注意事項

●取付け出来ない座席

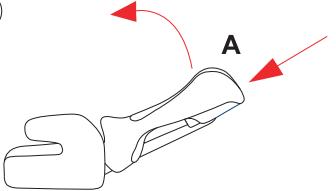
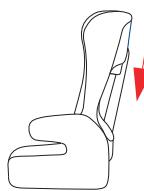
- ・フロントエアバッグ装備座席
- ・車の進行方向に対して、横向き及び後向き座席
- ・3点式シートベルト以外の座席
- ・シートベルトに損傷のある座席
- ・シートベルトの短い座席
- ・オートマティックシートベルト（パッシブシートベルト）の座席
- ・3点式シートベルトで、上下とも巻取り式の座席
- ・助手席、前部中央席
- ・補助座席及び幼児専用座席
- ・座面の凸凹が極端な座席
- ・取付け時、運転に支障を及ぼす座席（前部中央席など）
- ・市販のスポーツシート（極端なバケットタイプ）
- ・タンクストッパーが高い位置にある、もしくは本体と干渉のあるもの
- ・クッションが極端にやわらかい座席
- ・バックル位置が背もたれから10cm以上の座席
- ・バックル位置が座部から10cm以上の座席（数回ひねりで解消できるものもあり）
- ・座席の奥行きが40cm未満の座席

●保証規定

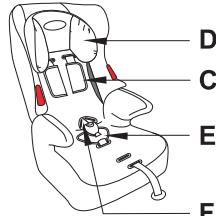
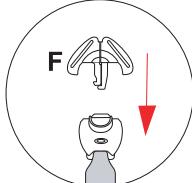
- 1、一度ご使用になった製品は、原則として交換できません
 - 2、保証期間内（ご購入日より一年間）に正常な使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします
 - 3、保証期間内でも次のような場合には有料修理・有料交換になります
 - a) プラスチック部品の自然劣化による変色
 - b) 本体シート、カバー等の縫製部品の汚れや損傷
 - c) お客様の誤使用、不当な修理や改造による故障及び損傷
 - d) ご購入後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
 - e) 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変による故障及び損傷
 - f) 本書と販売店の領収書（ご購入日記載のもの）がない場合
 - g) 本書のご提示がない場合
 - h) 一般家庭以外で、業務用やレンタル等でご使用され故障した場合
 - i) 有料修理の場合に要する運賃などの諸経費
 - 4、衝突事故など、一度でも強い衝撃を受けた製品の修理はできません
 - 5、製造中止後の製品については必要部品の在庫がなくなった場合、修理できないことがあります
 - 6、本書は日本国内においてのみ有効です
- ※ 本書は再発行いたしませんので、ご購入の領収書（ご購入日記載のもの）と一緒に大切に保管してください
- ※ 保証は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです

●STAGE3からSTAGE1への組立て

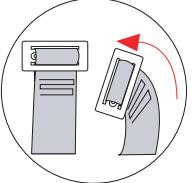
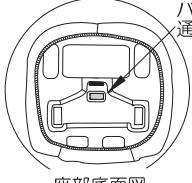
組立て終わりましたら、ページ2のチェックリストで全パートが揃っているか、破損が無いかを確認してください。

- ①  

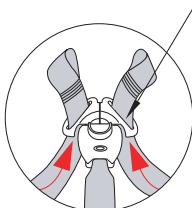
A **B**

① **A** 背もたれ部を座部の差入口に差込み、ゆっくり起こします。
B 背もたれの上から体重をかけて押込みます。
- ② 


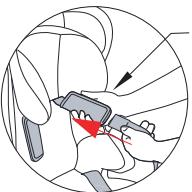
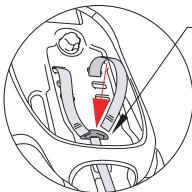
C **D** **E** **F**

② **C** 肩パッド、**D** サイドプロテクションを取付けてください。
バックルに **E** 股パッドを付け
F 左右二つあるバックル用のタングをはめます。
- ③ 


バックル 通し穴 座部底面図

③ バックルのベルト端にある金具を縦にして座部のバックル通し穴に押し込みます。座部底面からバックルの金具を引抜き、バックルがチャイルドシート本体からはずれないように金具を横にします。
- ④ 


G **H**

④ 肩ハーネスをチャイルドシートの底面から**G**左右2つの穴に通し座面に出します。次に**H**タングの後から前に通します。ハーネスはねじれがないよう確認します。
- ⑤ 


I **J**

⑤ さらに**I** 左右のハーネスを肩パッドの下から上方に向かって通し、肩パッドと同じスロットより背面に出します。最後に**J** Yスプリットに左右のハーネスをかけます。

●製品情報

モデル名： TYPE 301
適応体重： 10kg～36kgまで
適応身長： 140cmくらいまで
参考年齢： 満1歳から
商品サイズ： 68cm(H) x 45cm(W) x 54cm(D)
商品重量： 5.5kg
製造国： フランス

●個人情報保護について

ユーザー登録カードの個人情報は、商品に関する変更など（商品リコール等）が生じた際の対応や、お客様へのお知らせなどの目的以外には使用いたしません。最新の個人情報保護方針については、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.danar.jp>

当社の個人情報の取扱いに関するお問い合わせは下記までお願いします。受付時間はAM10:00～PM5:00(土日祝日を除く)となっております。法令に従い対応させていただきますので、ご了承ください。

デイナー・インターナショナル
テクニカルサポート

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-13-108
TEL.03(5447)1915 FAX.03(6408)0232
e-mail : info@danar.jp

Ferrari

OFFICIAL LICENSED PRODUCT

Produced under license of Ferrari Spa. FERRARI, the PRANCING HORSE device, all associated logos and distinctive designs are trademarks of Ferrari Spa.

Ver. 061010